

モデル地域の現状と課題

平成16年2月27日

1 . 清水寺・産寧坂周辺地域

(1) 概要

清水から祇園にいたる京都観光ルートの代表的地区で、**年間300万人以上の観光客**で賑わう。音羽山の山裾に位置する清水寺、西方を下る清水坂の左右には**門前町**があり、産寧坂、二年坂、石塀小路を含む伝建地区は、種々の様式の**伝統的建造物による町並み**を残す木造家屋が密集する。また、高台寺他著名な文化遺産がある。

道幅は狭く、緊急車両の入れない小路が多い。また、坂道が多い。



清水寺門前町（清水坂）

茶碗坂





産寧坂



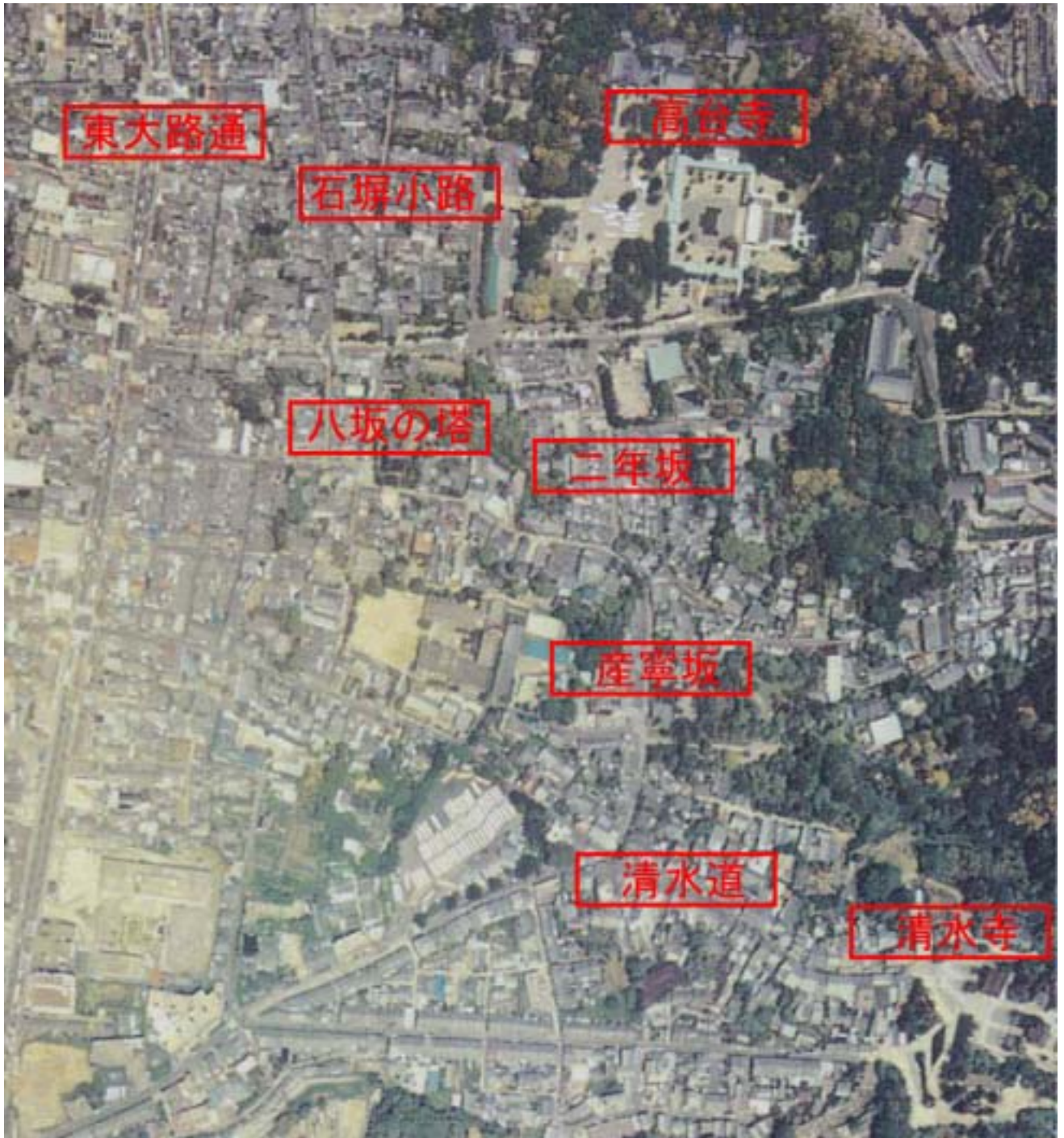
二年坂



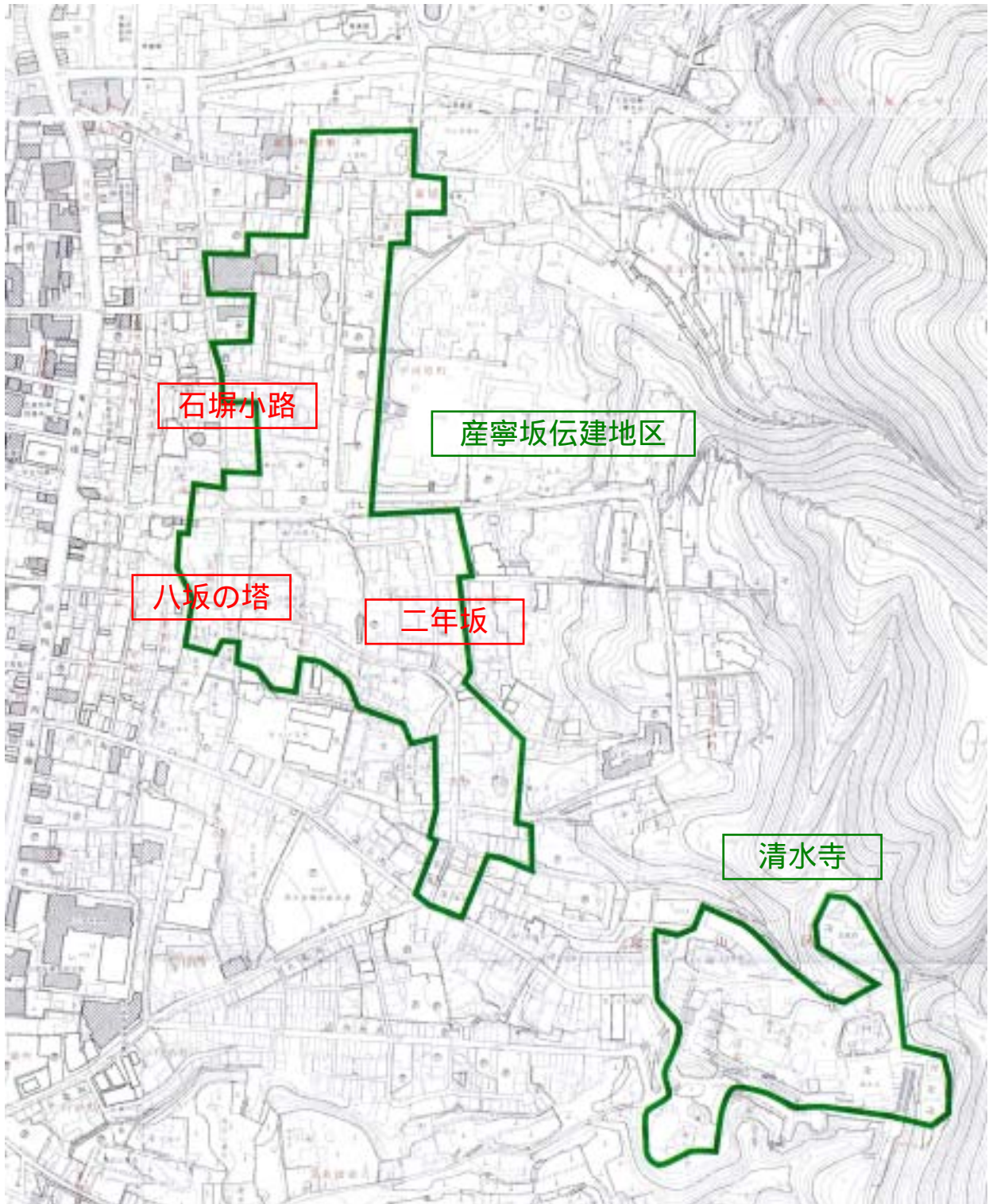
八坂の塔



石塀小路



清水寺及び産寧坂伝建地区の航空写真



清水寺及び産寧坂伝建地区の地形図

(2) 地理的特性

東山山麓に連なり、地域全体が東西方向に緩やかな傾斜地形となっている。清水寺は尾根筋にあり、産寧坂地区は低い位置にある。また、東山山麓には桃山断層が位置している。

東山山麓に防火水槽等を配置すれば、地形の高低差を活かした消火施設を設置できる。

(3) 消防水利の条件

・伝建地区

防災公園（高台寺公園）に貯留槽、消火栓が配置されている。

菊谷川は常時の水量が極めて少ないが、貯留施設を設ければ降雨時の水を利用できる。また、地下水位が比較的高いことから、地下水の利用も考えられる。

・清水寺

谷水を防火水槽（600m³）に貯留し用いている。川の水量に余裕があれば、防火水槽の拡張も考えられる。

清水寺の門前町の通りには3箇所の消火栓、6箇所の水道用水の弁があり、警備団の緊急時の使用が可能である。



菊谷川（高台寺北側）



菊谷川（上流部）

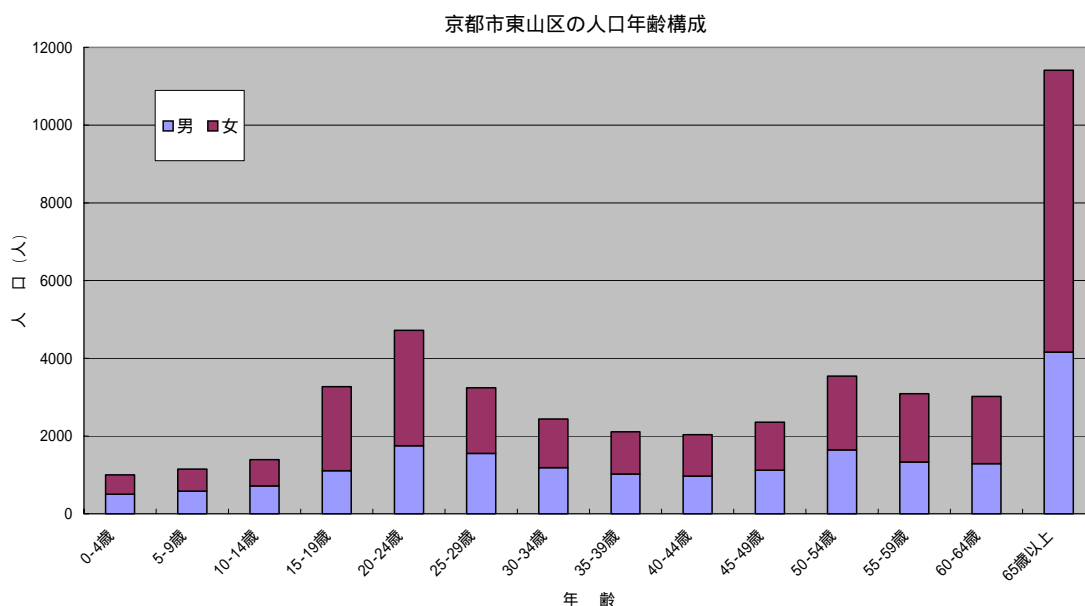


高台寺両側道路
（写真左は石堀小路地区）

(4) コミュニティ

本地域は観光地としてにぎわう一方、少子・高齢化が顕著である。東山区の65歳以上の人口割合は25.5%を占め、京都市で最も高齢化している。また、地形的に坂道や路地が入り組み、防災上の課題が多い等、深刻な問題を抱える。

これらの要因もあり、地域住民による様々な自主的な活動が行われてきており、防災に関わるコミュニティとして、清水寺警備団、自治連合会、清水安全・安心まちづくり実行委員会（あんあん会）等、まちづくりのコミュニティとして東山散策道路を守る会等で様々な活動実績を残している。



京都市東山区の人口年齢構成

(5) 問題点及び今後の課題

- 伝建地区に指定されている地域であり、建物の不燃化や道路の拡幅等都市構造の改変が困難である。
- 伝建地区は、木造家屋が密集している上に、道幅も狭く入り組んでおり、初期段階の消火が非常に重要である。そのため、自主的な消火活動が可能な組織作りが必要である。
- 大規模な地震火災を想定すると、非常用の水量確保、他のエリアからの延焼防止を目的とした設備等の配置が必要である。
- 清水寺警備団は、エリア外の近隣地区に対する消火活動も可能であり、エリア外からの延焼防止は清水寺をまもることとなるため、弾力的な運用が行える仕組みが必要である。
- 日に約1万人もの観光客が訪れる地域であり、災害時における観光客への対応、対策についても考慮が必要である。

2 . 柴又帝釈天周辺地域

(1) 概要

柴又帝釈天大客殿は都選定歴史的建造物、題経寺諸堂および二天門の建築装飾彫刻は葛飾区の登録文化財となっており、敷地内の建物のほとんどが木造建造物である。

地域の周辺道路は柴又街道や都道 468 号堀切橋・金町浄水場線，江戸川堤防道路を除いて、ほとんどの道路が幅員 4 m 未満である。

建物の構造形式は、耐火建物がところどころに見られるものの京成柴又駅から帝釈天までの参道には木造家屋が密集している。

帝釈天の東側には、新たに都選定歴史的建造物として指定された「山本亭」が位置する。



門前町から帝釈天までの参道

柴又帝釈天西門



柴又帝釈天題経寺の大客殿



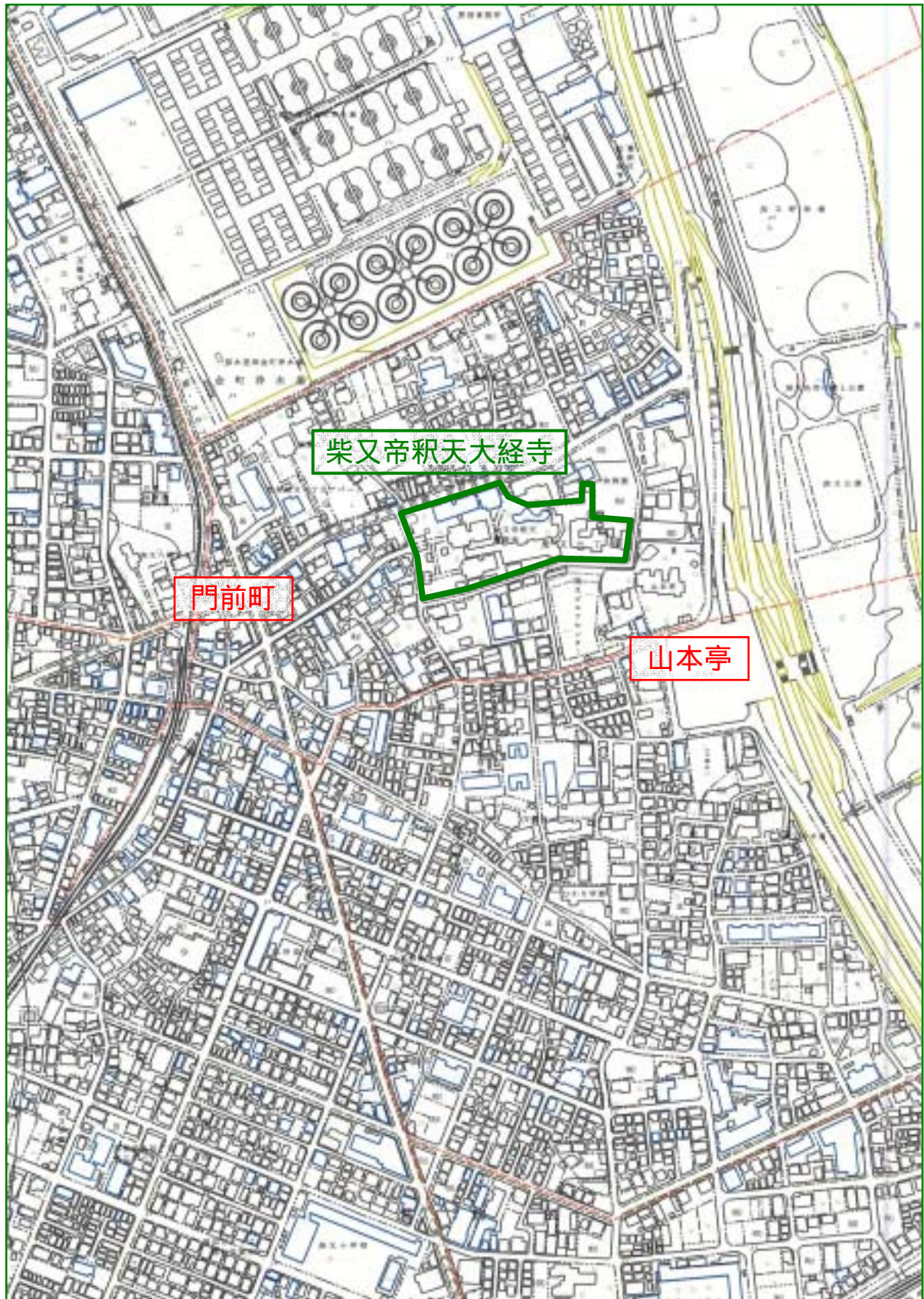
柴又帝釈天南側通路



山本亭



金町浄水場
(江戸川右岸堤防から望む)



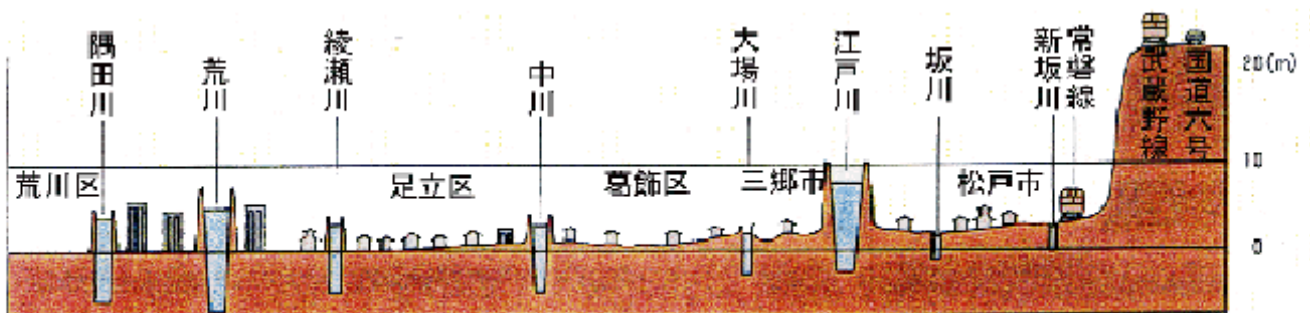
柴又帝釈天周辺の地形図

(2) 地理的特性

柴又帝釈天の周辺地域は、両側を江戸川と中川に囲まれ、河川の氾濫原である沖積平野となっており、江戸川の右岸地域は江戸川の高い堤防に囲まれた低平地である。

このような自然・地形要因から、この地域の地盤は軟弱であり、地震時には地震動の増幅や液状化等による被害も想定される。

一方、水利的にはポンプアップを行う必要はあるが、比較的近傍に江戸川があり、河川水を利用することが可能である。



葛飾区横断模式図

(3) 消防水利の条件

・金町浄水場

帝釈天北部約 200mの地点に位置するが、都民の飲み水でもあり、原則的には市民や消防団・消防隊による消火活動にこの水の利用は行わない。

・江戸川

帝釈天の東側を南方に流下しており、河川水位は堤内地盤高より低い。緊急時にはポンプアップ等で取水を行い、河水による補給を行う。

また、この区間の江戸川は感潮区間であり、消火用水として塩水を用いることに対する課題がある。

帝釈天周辺地盤高および江戸川水位

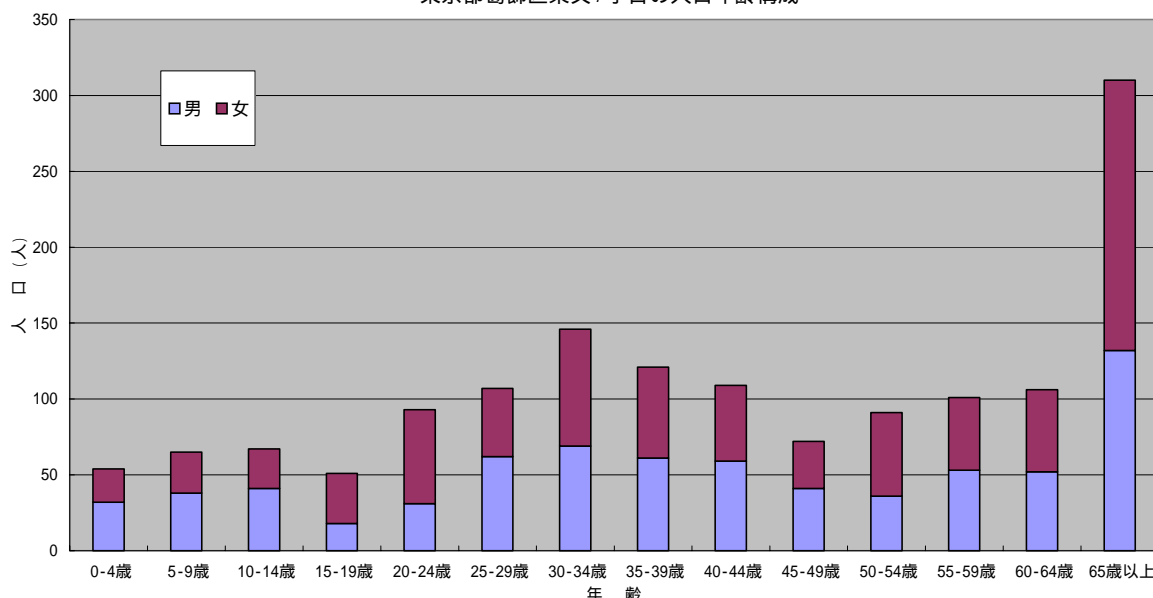
帝釈天周辺地域地盤高	江戸川水位（潮位）	
T.P. + 2.9m（帝釈天東）	朔望平均 満潮位	T.P. + 0.923m
T.P. + 2.4m（帝釈天南）		
T.P. + 2.2m（帝釈天二天門）	朔望平均 干潮位	T.P. - 1.076m
T.P. + 1.9m（柴又駅前）		

(4) コミュニティ

柴又帝釈天は観光地としてにぎわう一方、**少子・高齢化が進んでいる**。対象地域のある柴又7丁目の65歳以上の高齢者の割合は20.8%と高い。

災害に対して問題を有する地域であるにも関わらず、**防災活動に関わるコミュニティ活動が少なかった**が、近年東京消防庁、自治会、コミュニティ等の連携した活動が行われている。防災に関わるコミュニティとしては柴又神明会消火隊、防災ボランティア、自治会等があり、まちづくりのコミュニティとして、柴又神明会、かつしかまちかどネットワーク(まちネット)がある。

東京都葛飾区柴又7丁目の人口年齢構成



東京都葛飾区柴又地区の人口構成

(5) 問題点及び今後の課題

- エリア周辺部の建物の不燃化や道路の拡幅等都市構造の
改変による対策も課題として考えられる。
- 大規模な地震火災を想定すると、非常用の水量確保、他の
エリアからの延焼防止を目的とした設備等の配置が必要
である。
- 地形上、自然の力を利用した消火放水が困難であるため、
ポンプ等の動力が必要である。
- この地域の防災活動として、近年地域コミュニティと柴又
帝釈天等の連携した取り組みが始まっているが、柴又帝釈
天の積極的な自主防災活動が必要である。
- ハード対策だけで文化遺産と地域をまもることは困難で
あり、様々なコミュニティ組織の構築・促進を図る必要が
ある。
- 防災コミュニティは、自主的に活動ができるような組織と
する必要があり、日頃から防災訓練、消火活動を実践でき
る場を提供することが必要である。